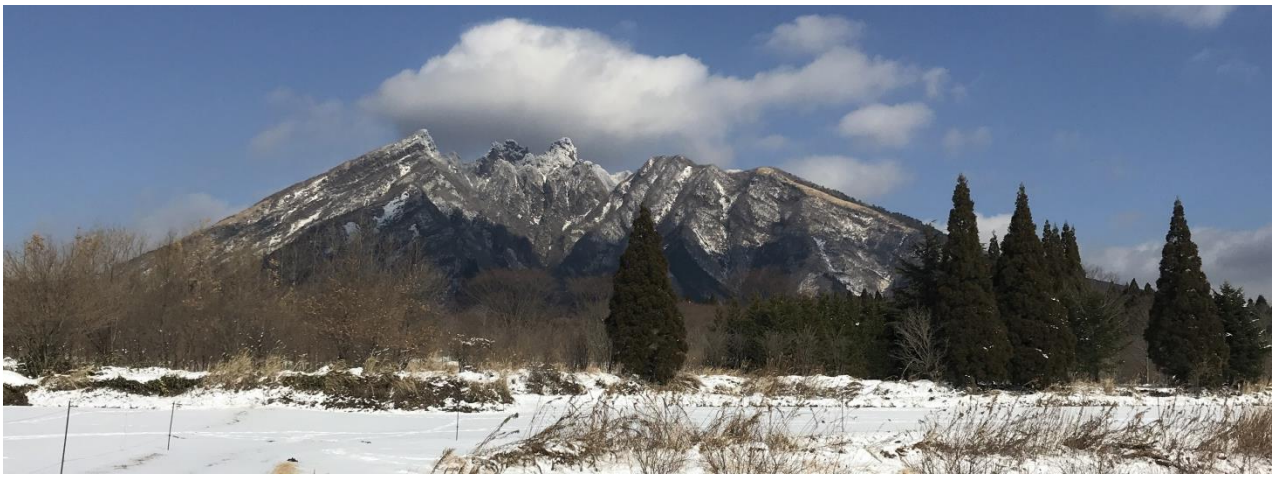
The Japanese Alpine Club Kumamoto Section

熊本支部報

（公社）日本山岳会熊本支部

第４３号
平成３１年１月１８日　発行
編集・発行者　中林 暉幸
(公社)日本山岳会熊本支部事務局
熊本市中央区帯山 1-25-17-801
山本　直　方



根子岳冬景色

目　　次

1　平成３０年度前半期を振り返って(中林暉幸)　…… (1)
2　平成３０年度支部合同会議報告(中林暉幸)　…… (2)
3　平成 30 年度中間期(８月～11 月)活動報告
① 登山研修会・津留川沢登り(安場俊郎)　…… (3)
② 2018.8.11 熊本「山の日」登山祭(中林暉幸)　… (5)
③ 夏季ビールパーティ　…… (8)
④ 北アルプス：槍ヶ岳登山(土井理)　…… (8)
槍ヶ岳報告(中村寛)　……(11)
⑤九州脊梁山脈トレイルラン支援(松本博美) …… (12)
⑥秋の森林保全巡視登山(田北芳博)　…… (13)
⑦秋の登山教室：くじゅう平治岳(松本博美) …… (15)
⑧第 34 回宮崎ウエストン祭(田北芳博)　…… (16)
⑨個人山行・八ヶ岳縦走(千々岩泰子)　…… (18)
4　随想寄稿
想い出の山行「槍沢にて」(城戸邦晴)　…… (23)
5　事務局より　…… (24)

平成 30 年度前半期を振り返って　　支部長　中林暉幸

今年度は役員改選の時期に当たり、あとを継いだ新執行部は引継ぎの不手際や準備不足もあり当初は計画の中止もあったりして、会員会友の皆さん方には大変ご迷惑をおかけして申し訳なく思っております。その後の活動も、この夏の例年にない猛暑と多雨、台風接近といった厳しい天候の中での事業もありました。秋以降は曲がりなりにも天気に恵まれ各事業とも順調に実施でき、無事に遂行できたのは幸いでした。

支部活動としては少なくとも月１回の事業を計画していますが、各回の参加者が一部の人たちに偏っているような気がします。今後できるだけ多くの会員会友の皆さん方の参加を期待しています。一方で、来年度に向けて、多くの方が参加しやすいような山行を計画するとともに、早めに計画を進めていき、より充実した支部活動ができるよう努めたいと考えています。ご意見ご要望などお伝えいただければ嬉しく思います。

平成 30 年度　支部合同会議報告

９月 29 日(土)、30 日(日)　 29 日 13 時開会

会場　東京都千代田区　婦人会館「プラザエフ」

全国３３支部支部長・事務局長、本部より会長、副会長、理事７名ほか総数９３名参加

(1)　会長挨拶、会務報告　会員数漸減の厳しい財政状況の中、創立１２０周年記念事業推進組織、アンケートの集計結果、支部助成事業経過、登山計画書提出状況等の説明。その後広島支部より富士山と北海道幌尻岳の事故についての報告とその後の取り組みについて報告あり。

登山届提出が制度化されて初年度であり、提出状況には支部によってばらつきがある。熊本支部の提出も多くはない。事故後の広島支部は個人山行も含めてほぼ 100%の提出である。

(2)「山の日」の活動について　(「山の日」事業委員会)

第 3 回「山の日」記念全国大会を鳥取大山で開催、記念式典など盛大に行われた。大山登山には 75 人が参加。(詳細は会報「山」9 月号に掲載)来年は山梨、再来年は大分を予定。

全国では 15 支部が行った。

(3)　入会者の増強に向けて会員減少に歯止めを

支部別会員動向報告、漸減に歯止めがかかっていない。年齢構成全国平均 68.19、熊本支部は 67.05

・支部登山教室アンケートより、登山教室を実施 19 支部、実施していない 11 支部

(事例発表)・東海支部：会員平均年齢が 63.11 と最も若い(№1 を目指している)。安全第一に、一体感を持って、上中下 3 コースに分けて実施。質の高い受講生が集まる(上 12、中 30、下 20)、各レベルとも指導要綱カリキュラムを作成、充実した登山学校を実施している。

・東京多摩支部：ＯＨＰを用いて説明。立川市生涯学習推進センターが全面的に推進。

・北海道支部：子供サマーキャンプ：テント生活、キャンプファイヤー、手作りパン講習、ツリークライミング登山など。次世代の登山愛好家育成。

(副会長)：入会者のアフターケア、次のリーダー育成が課題、要請あれば手助けしたいとの発言あり。

(4)　安全登山について：会員の遭難事例：上高地山研に宿泊した会員が、単独行、登山届ナシ、帰還せず 17 日後明神岳で発見、登山届があればあるいは生還できたかも；「自分は大丈夫」でなく、いかなる場合も登山届を…ＪＡＣ本部では委員長のみ目を通す、何かあれば委員会で。3 か月後には廃棄

事故対応マニュアル(重廣副会長)：消防・警察は 3 日間しか捜索しない。その後は民間か山岳メンバーでの捜索。支部でも遭難対策委員会を設けておく…力量・体力等を考慮してリストを作っておくとよい。

・ヒヤリハットの事例を募集：体験の中でヒヤッとしたこと、ハッとしたことがあれば報告して欲しい。

・健康登山塾についての例・群馬支部：年全 7 回、参加費 10000 円、100 人近い応募あり抽選で 25 人に絞った。座学から半日程度の軽登山を実施。(以上)

当日は台風 21 号が接近、気をもみながらの会議であった。2 日目の協議を一部繰り上げて 1 日目に行い、2 日目は 10 時過ぎ閉会。終了後、直ちに羽田に直行したが、熊本便は欠航、辛うじて飛んでいる福岡便に切り替えて、その日のうちに何とか帰熊することができた。(報告　中林)

ヒヤリハットの事例を募集しています。様式は特にありません。次のような要点をまとめください。
①氏名　②年月日　③場所　④同行者数、パーティの形態　⑤年齢　⑥ヒヤリハットの状態、その経緯
⑦反省や対策など。本部への報告としますが、支部でも今後の戒めとして共有したいものです。
提出先・・・事務局へメール(syamaf2001@yahoo.co.jp)またはＦＡＸ(096-381-3096)

平成３０年度中間期（8 月～11 月）活動報告

① 平成 30 年度登山研修会沢登り報告　　安場俊郎

期日　平成３０年８月 4～５日

場所　事前研修 8/4　美里町農村婦人の家　研修室

　　8/5　緑川水系　津留川中俣遡行

参加者　松本莞爾・中林暉幸・石井文雄・安場俊郎・橋本悦子・山本直・佐藤正樹
　　土井理・江島博之・岩下律雄・高屋敷しの　　11 名

事前に予定した前日土曜日の岩野山での岩登り練習は酷暑による日射病のおそれがあるため、屋内での勉強会に改め、午後３時、佐俣の湯に集合、農村婦人の家へ向かった。

16：00～沢登りビデオ映像の上映。

　　明日の下山のための車３台（中林・江島・岩下）を配置、運転手回収車石井

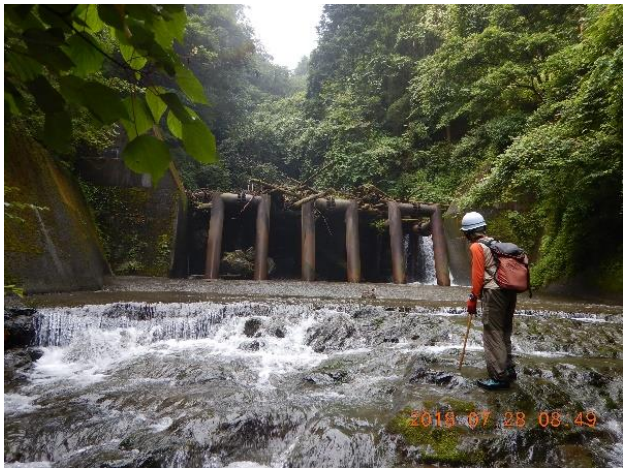
18：30～　懇親会　山談義で盛り上がった。

21：30 頃就寝　　研修室の畳の間　エアコンが効きすぎて少し寒いくらいであった。

　8/5　翌日は５時起床　朝食　石井氏提供のカボチャなど具沢山に味噌汁がうまかった。

７時　農村婦人の家を出発　上津留部落の駐車地が狭いため安場、佐藤、松本車に分乗。

　7:40 頃　民家先の杉林から１０人で入渓。沢を進むとすぐパイプ堰堤、右の灌木の急斜面を登り堰堤の 1.2m３段段差を懸垂下降で沢に降りる。80m 進んで難所の滝壺水深 1m、高さ 3mの滝。



　朝１番に全身濡れるのもどうかとの意見があり、左を高巻く。30mロープ使用。すぐ後続の 10 人グループがこの滝に挑んだがなかなか時間がかかったようだ。先で合流したが八代山の会であった。

　この後、4~5m の小滝、登れないので、左の泥付を上がり、フィックスロープを掴んで滝上へ。

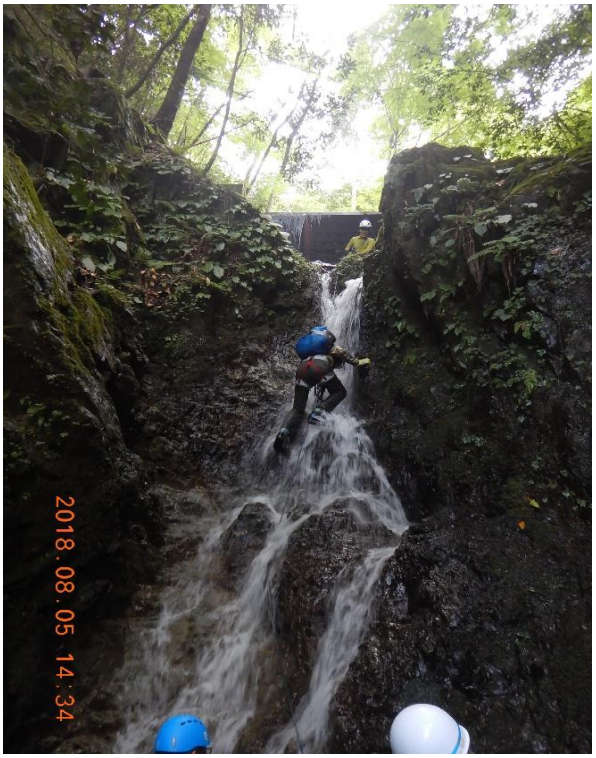
　やがて、左手に右俣出会い、更に進むとゴルジュとなり、釜を泳げば、なんとか上がれそうだが先が見えないので次の滝が自信なく、左を大きく高巻く。崖の上の斜面をいくため安全確保のロープを出す。先で沢に降り小滝の連続となるが適当に濡れを避けながら、簡単な登りを楽しむ。安全のため要所でロープを出すため時間を費やす。

　先の３段の滝は、１段２段は容易だが３段目 6mを土井氏が佐藤氏の確保でシャワークライムに挑戦し

たが、滝落口にホールド、スタンスともなく断念、クライムダウンとなったが、肩がらみ確保のロープを緩めるのが早すぎて、滝壷に落下してしまった。怪我はないようだったが、肩がらみではなく支点をとって制動器を用いるべきだったかと思った。ただ、滝上には適当な支点がとれないことが多いので肩がらみを多用するが今後の課題。この 3 段目は左に高巻き。この先小滝の連続は適当に流下を避けて登り。このころは全員、腰まで水につかり、気温の上昇とともに濡れが気にならなくなる。

11 時ころ佐俣出会い。2/3 終了か？　この先で昼食とする。

このあと小滝は数カ所続き、各人の技量にあわせて、滝の中心を登る人と脇の登り易いルートを行く



人と分れて登る。やがて小滝の最後である鉄柵の砂防ダムの前の５ｍの滝は全員で簡単なシャワークライムをして滝の登攀の終了となった。

ダム上の河原で全員の記念撮影　14：40 頃

あとは、ガレ谷を単調に詰めると、車道のガードレールが見えだし、15：30 車道の橋をくぐって国道に出て、昨日残置していた 3 台の車に分乗、下津留部落に下り、中林支部長の挨拶で終了。16：00 解散

反省　高巻きや小滝の登攀で頻繁にロープを出す必要に迫られた。10 人のパーティでも 3 人は 20m ロープを各自１本、すぐ出せるようにリュックの外に出しておく。

高巻きでは、転落に備えて要所でロープ確保の必要があった。また落石の危険に常に全員が頭上注意をリーダーは全員に喚起を促すこと。

(感想)　初めての沢登りとても楽しかったです。ご一緒して下さった皆様、ロープで引き上げて下さった皆様、本当にありがとうございました。(Ｓ.Ｔ)

② 2018.8.11(土)：くまもと「山の日」登山祭・俵山

第３回熊本「山の日」登山祭実行委員会

委員長　　熊本県山岳連盟会長　　工藤文昭

副委員長　日本山岳会熊本支部支部長　中林暉幸

熊本県山岳連盟と(公社)日本山岳会熊本支部が主管となって、今回３回目を迎える熊本「山の日」、６月以来、両者代表の打ち合わせ３回、今年は阿蘇外輪山の一角俵山で行うこととなった。各方面への協力依頼など手分けして進めたが、短い準備期間の中で、結局スタッフ全体の会合は１回のみ、過去２回の経験と反省をもとに安全第一を掲げながら計画を進めた。猛暑の最中でもあるし、スタッフの数に限りもあるので、今回は登山コースを一本に絞ることにした。今回は地元行政機関の南阿蘇村、西原村の後援をお願いし、快諾を頂くことができたし、県内アウトドアショップ 3 店舗、山の店シェルパ、好日山荘熊本パルコ店、モンベル南阿蘇店の後援も得ることができた。それぞれの店舗から買い物券等のサービスもいただくなど協力していただいた。更に参加する子供さん方にも喜んでもらえるようにと、県の人気キャラクター「くまモン」の缶バッジを製作し、配布することができ、好評ではあったように思う。これもシェルパさんの無償製作のサービスである。短い準備の期間であったが、多忙な中、各スタッフのボランテイアによって、くまもと「山の日」登山祭を迎えることができた。

当日、スタッフは県内各地から俵山峠展望所の開会式会場に集結、早朝から準備に取り掛かった。開会式場設営、受付、配布物準備、そして各担当ごとの打ち合わせ、文書では周知しているが初めて顔を合わせる者もいて遺漏なきようにと確認する。受付予定時刻の８時前から、一般の登山者が三々五々集まり始める。駐車場があまり広くなく、係の誘導も一苦労だったと思う。受付終了の定刻８時 50 分にはほぼ一段落し、開会式も予定の 5 分前には始める事ができた。実行委員会副委員長の代表挨

拶、土井Ｄｒ.の熱中症対策、佐藤登山隊長の登山上の注意、そして準備運動の後、9 時 15 分登山行動開始する。

参加者は小学生から８０代までさまざまである。300 人を目標に配布物を用意してきたが、参加者 200 人前後か、暑い中いきなりの急登を登り始める。以前、登山道は綺麗に草刈りなど行われて歩き易かったが、一昨年の地震後は手が回らなくなり、カヤやクマザサが生い茂っている。分岐など要所には立哨して誘導案内も配置した。急登 3 ヶ所を越え、頂上まで標準 90 分、最後尾も 2 時間はかからなかった。

11 時 20 分から山頂集会、工藤実行委員長の挨拶の後、高校生代表による「山の日宣言」、そして全員の集合写真を収め、11 時 50 分頃には下山開始し、往路を辿る。このころには強い日射しが陰り、風もやや強くなってきて、思いのほか凌ぎ易かった。午後 1 時過ぎには、熱中症などのトラブルもなく全員無事に下山でき、峠の展望所にて閉会式を行うことができた。正式に受付表を提出した者 197 名、配布物資料の残部から推察すると 215 名の参加者であった。

3 年目を迎えて話題性が減少し、特に今年は過去最高の猛暑が叫ばれる中での「山の日」である。それだけに今回の参加者は真に山の愛好者であるといえよう。登山だけでなく、本来の、故郷の山に親しみ、その豊かさに感動するとともに、山の恩恵に対する感謝の念を今一度確かめ、これを次の世代に引き継いでいくという意思を改めて心に銘記したいと思う。

「山の日宣言」熊本工業高校山岳部：新川史也君

「私達のふるさと熊本には、身近に阿蘇五岳などの豊かな山々があります。自然と人々の距離が疎遠になりつつある現代だからこそ、ふと目を留めると決して動くことなく四季折々にその姿を変える山の偉大さや儚さに感動し、山に登ってみれば自然の匂い、空気、それに囲まれているという非日常的な刺激を味わうことができます。また、ありとあらゆる場所で山は多大な恩恵をもたらしています。私達はこれほどの恩恵を与えてくれる山を今一度見つめなおし、次の世代へと守り育て、伝えることを熊本県民として宣言します。」

工藤実行委員会委員長頂上挨拶(要旨)

「俵山の名の由縁：南郷谷のおいしいコメの運搬ルートとして、南外輪山をまたぐ護王峠、地蔵峠、俵山峠、北向山ルートなどがある。米俵を運ぶルートの一つという意味でつけられたとも、また南郷谷から見ると北向山の方角は俵の形に見える、それが国土地理院の山への命名の際に、付近で最高点のここに俵山とつけたともいわれる。」

担当としては打ち合わせの機会も少なく、意思疎通が不十分なところもあったと思う。猛暑の中での登山祭ということで、関連行事はできるだけ短時間簡潔に済ませるよう努めた。事故もなく無事に終了し、所期の目的を果たすことができたことに安堵しつつも、改善すべきところなど検討の上、来年度の運営に生かしていきたいと思う。

※　今回の「山の日」登山祭のポスター、缶バッジ、横断幕はいずれも、くまモン利用許諾事務局の許可を得て、佐藤正樹会員のデザインによるものです。

③ 平成 30 年度夏季ビールパーティ開催

８月２５日(土)　恒例の夏季ビールパーティ、今年は市役所１４階のレストラン、「ダイニングカフェ彩」で行われた。眼前に雄姿ならぬ地震後の復旧工事中の熊本城を望む展望レストランである。大天守の最上部こそ姿を現したものの、工事中の天守閣をはじめ被害の状況が間近に見て取れる。崩壊したままの石垣、長塀などまだまだ手付かずの部分が多く痛々しい限りである。

１４時過ぎから配布物の確認、支部旗の掲示など準備を整えると、やがて出席者が続々と集まってくる。出席者はほぼ例年と同じ２６名である。定刻の１５時に開会、支部長挨拶の後、今年めでたく傘寿を迎えられた前々支部長の工藤文昭顧問のお祝いのセレモニーである。支部長より紹介祝辞の後、ささやかなお祝いの品を贈り、工藤顧問より言葉を頂く。そして松本莞爾前支部長の乾杯の音頭で和やかに開宴となった。

会員会友が集まる機会が少ないことから、宴の半ばには、今年度後半以後の諸行事について、それぞれの担当から紹介してもらう。また先般、本部から開催打診があった全国支部懇談会 2020 については、概略を説明したものの、議論白熱、今後また慎重に検討することとなった。(この件は後日誤報と判明)

２時間の予定時間は瞬く間に過ぎ、１７時にはお開きとなり、まだ明るい街の中に三々五々、二次会(？)へと消えていった。

④ 北アルプス遠征登山 槍ヶ岳登山報告

担当･リーダー　土井　理

１、期日：2018 年 9 月 14 日（土）－9 月 16 日（月 祝日）
２、ルート：上高地より槍沢経由し槍ヶ岳―槍ヶ岳より上高地のピストン
３、参加者 6 人：土井理、中林暉幸、山本直、安場俊郎、池田清志、中村寛
４、日程及び行程・概要

安場さんは前日に島々宿より徳本峠小屋に宿泊し、上高地に入るとの事で、槍沢ロッジで合流予定。

集合場所：熊本駅新幹線口の待合所　集合時間：9 月 14 日(金)　17:30

熊本駅集合後 18:03 さくら 568 号で出発、夕食を列車の中で各自取り、21:25 新大阪駅到着。

新大阪駅からは 21:49 発の阪急･アルピコ交通高速バスで松本バスターミナルに。

翌日 15 日 6:20 松本駅前到着。松本駅で上高地までの往復切符を購入。

松本駅発 6:31 の松本電鉄と新島々バスに乗り換え、8:20 上高地（標高約 1500m）に到着。

天候は当初の予想通り雨。上高地食堂の朝定食でお腹を満

たす。不要な荷物をまとめて、手荷物預け、雨具を着て 9:30 登山開始した。
山本さんに先頭をお願いし、山本さんの快調なペースで槍沢を目指しての登山であった。
10:20 明神―11:10 徳沢の各々で 5 分程度休み―12:00 横尾にて行動食で昼食。
途中、日本猿の団体に見送られながら、槍沢へと進んだ。
14:20 には槍沢に到着し、槍沢ロッジ(1814m)に入った。既に安場さんは到着しておられた。
濡れた服その他を乾燥室に入れて、与えられた部屋に入って荷物の整理等行った。
雨が徐々に強くなる。天気予報では尾根筋の風速は 15m 以上との予報が出ており、槍ヶ岳から南岳への尾根線の行動は危険と判断し、翌日の宿、南岳小屋をキャンセルし、槍ヶ岳山荘に予約をした。槍沢ロッジも南岳小屋も槍ヶ岳山荘も同様の経営母体であった為、宿泊変更が容易であった。

槍沢ロッジはお風呂が有り、15:00 から入浴可能になったので各自入浴した。山小屋での入浴は格別のもので、雨の中の山行の後ともなれば、それは天国の様であった。入浴後は談話室で各自の行動食と購入したアルコールで宴会を開始。夕食は 17:00。翌朝は 5:00 から朝食を取って、6:00 に出発する事として早めに就寝した。

16 日、天候は曇り、しかし今にも雨が降りそうな天気。槍の姿は雲の中で見える気配は無い。安場さんは、自分は時間がかかるので早く出ると、5:30 頃 1 人出発されたとの事だった。

本日の先頭も山本さんにお願いし、雨が少しパラついてはいたものの快調なペースでの登山となった。雨の中の山行の用意をし、6:05 槍沢ロッジを出発―6:43 ババ平(2000m)を通過―7:45 水俣乗越の分岐(2090m)：5 分程度の小休止―8:00 天狗原分岐(2350m)で約 7 分の小休止―9:20 坊主の岩小屋(2700m)：風が強く寒くなり全員が雨具を着て登山―9:30 殺生ヒュッテへの下の分岐を通過「安場さんが殺生ヒュッテに立ち寄っているかも」と考えたが、徐々に雨風が強くなり、「全員を安全な場所にと考え」殺生ヒュッテに寄ることなく、槍ヶ岳山荘へと登って行った。9:40 殺生ヒュッテへの上の分岐を通過、10:40 槍ヶ岳山荘(3080m)に到着。約 7 分間の小休止。天気予報を確認すると、天気はこれから徐々に悪化、風や雨が強くなる予報が出ていた。安場さんはまだ到着していなかった。「おそらく殺生ヒュッテを経由しているのであろう」と考え、安場さんを以外の全員の意向を確認。「槍ヶ岳登頂しますか？　登頂するのであれば今しかない。この後天候は更に悪くなります。」
全員行く登頂するとの事で、槍ヶ岳山荘前にザックをデポして、必要な物だけ持って空身で 10:50 から槍ヶ岳登頂開始した。

例年の 9 月の連休中の槍ヶ岳登頂は、並んで順番待ちが常なのだが、雨風の中誰も登頂するはずは無く、順番待ち無し。これは大変ラッキーであった。先行下山者はいるものの、登山者はいない状態であった。私が先頭でステップを確認し岩を登り、鎖場、鉄梯子を上り、頂上直下の長い 2 連の鉄梯子を登り切り、11:40 全員で槍ヶ岳山頂(3180m)に登頂した。雲の中で周囲は真っ白、眺めは無し。各々記念

写真を撮り、山頂集合写真を撮って約 5 分後下山開始した。下は見えず高度感は無く、下山時も梯子や鎖をしっかり持ち、ステップを確認しながら慎重に下山した。12:00 には槍ヶ岳山荘に戻って来ることができた。

安場さんはまだ到着していない。しばらく待っていたが到着しない。雨脚は徐々に強くなり、かなりの雨になった。中林支部長と山本事務局と心配しつつ相談。槍ヶ岳山荘は電話通じるが、下の殺生ヒュッテでは携帯は通じない。心配しつつ待っていると「安場さんが来た」山本事務局の声で入り口付近を見ると、ずぶ濡れの安場さんが現れていた。無事で「ホッ!」と安堵した。

安場さんの話によると、「坊主の岩小屋付近で追い越された。」「声をかけたが誰も気づかなかった。」「槍ヶ岳山荘についたが既に誰も居なかった。」「槍ヶ岳に登頂しに行ったに違いないと考え、私も向かった。」との事でした。何はともあれ無事で安心しました。

南岳小屋迄の予定を中止、槍ヶ岳山荘泊にした為、早く小屋に入ることができて、ゆっくりすることとした。皆で就寝する部屋に入り、濡れた物を乾燥室に入れて、少し落ち着いたところで、談話室で早々と宴会を開始、標高 3000m 以上なので飲みすぎに注意し、ビールで登頂の祝杯を上げた。まだ時間が早かったが、天候が悪い為か談話室は既に人であふれていた。池田先生は体調が悪く、食欲が無いと宴会の参加を見送られた。高山病の気配も感じられ、ダイアモックスを 1 錠内服して頂き、症状の改善を待った。　安場さんは明日一緒に帰るとの事で、名古屋から熊本のバスのチケットを電話で確認されたところ、空席有との事で、一緒に帰る事となった。

17 時の夕食の時間には池田先生も復活され、全員で食事を取る事ができた。翌日は下山予定だが、天候が風雨である予報が出ており、帰宅の交通機関が既に予定されている為、翌朝の朝食を朝弁当として、4 時起床、小屋で朝食をとり、5 時には出発予定とした。

夕食後は、小屋の外は暴風雨となっていた。明日の天候は心配であるが、用意をし、天候の回復を願いながら、備えて早めに就寝することとした。夜中は暴風雨が続いていた。

17 日 4 時頃起床、出発の用意をして、昨夜頂いた朝弁当を小屋で食べた。外は相変わらずの暴風雨、天気予報も午前中の尾根線は風速 15m の強風予報が出ていた。風に向かって頭を向け、前かがみ、足を踏ん張る　耐風姿勢を確認し、ヘッドライトを点灯し、安場さんを先頭に 4:45 下山開始。尾根線は体が持って行かれるほどの強風が時折吹く雨であった。足場をしっかり確認し下山。5:45 坊主の岩小屋通過―6:20 天狗原の分岐で約 5 分の休憩、ここまで来ると風はほとんど無く、安心して休憩することができた。途中先行の 15 人前後の大人数のパーティに追いついた。7:00 水俣乗越の分岐を通過―7:50 にはババ平の岩小屋跡に到着。雨も殆ど無くなり、雨具をしまい、10 分程度休憩。8:05 槍沢ロッジを通過―9:12 には横尾に到着 10 分程度の休憩―10:16 徳沢を通過―10:45 には明神に到着した。この頃には、雲が消えて青空が見えていた。しかし槍の穂先はま

だ雲の中であった。

帰りの上高地発のバスの時間が 12:00,12:30 とあった。全員の足取りを考えると、12:00 のバスに間に合いそうであった為、明神で全員を待って、バスの乗車券を土井が預かり、バスに乗る為の 12:00 整理券をもらう為に 1 人速足で下山した。11:30 過ぎ上高地バス停に到着。整理券 6 枚と、安場さん分の松本までのチケットを購入した。約 30 分の時間の余裕があるので大丈夫だろうと思っていたが、思いの外時間がかかり少しハラハラしたが、全員 12 時のバスに乗ることができた。新島々で電車に乗り換え、13:55 松本駅まで帰ってきた。

松本で、土井がよく使用する日帰り温泉の「瑞祥」でゆっくり入浴し汗を流し、生ビール･昼食たらふく摂って松本駅に戻り、お土産を購入。電車は連休の最終日で、臨時列車が数本出ていた。ここは私の知識に無く困惑したが、予定より 1 本前の名古屋行きのワイドビューしなの 20 号 16:53 発に乗車し名古屋駅に向かった。19:05 名古屋駅到着。名鉄バスターミナル待合室で軽食･飲酒、就寝前の洗面歯磨きをして、20:20 発の熊本行き高速バス「不知火」に乗車。翌早朝熊本に到着し、各自自宅への帰途についた。

考察と反省

計画時に登山や下山に要する時間を、昭文社の「山と高原地図」に記載されている所要時間の 1.4-1.5 倍で計画していたのですが、雨の中にもかかわらず全員の歩行速度は「山と高原地図」に記載されている時間とほぼ同じで、計画する際には再検討の必要性が考えられました。登山に要する時間と距離は今回程度が最大であろうとの意見もあり、これも今後の検討の課題と考えました。参加者の方には雨の中の登山で、景観は無く、ピークハントのみの登山になってしまった事が大きな反省点で申し訳なく思います。コース計画にゆっくりとした休憩時間を取る事が必要と考えられ、今後の計画には考慮すべきと考えました。

反省すべき点が多く有りましたが、全員無事に槍ヶ岳登頂できた事は良かったと考えております。

槍ヶ岳報告　　中村　寛

アルプス一万尺小槍の上でアルペン踊りを踊りましょう。・・・・・一万尺は約 3000m、小槍は、槍ヶ岳山頂近くの切り立った急峰のこと。

幼い頃から知っているこの歌、槍ヶ岳に行って来ました。集合場所の熊本駅に一番乗り、５人揃って新幹線、夜行バス、と乗り継いで早朝、上高地に到着。

予定では、初日、上高地～槍沢ロッジ　14km　5 時間程　高低差 300m 程

二日目、槍沢ロッジ～槍ヶ岳山荘　5.5km　5.5 時間　高低差 1300m 程

初日より二日目が大事、60ℓのザックにこの高低差、さらに山荘から山頂まで 30 分、気持ちだけは、十分準備してきました。

初日、上高地は生憎の雨、ここから河童橋、明神池、横尾大橋と梓川沿いのよく整備された登山道を歩く。早朝なので登山客が多いが、ここは欧州のリゾート地みたいな雰囲気があり、観光客も多い。予定どおり午後 2 時前後に槍沢ロッジ到着。ここで先に来ていた安場さんと合流。ここはお風呂があるか

ら有難い。沢山の客がいるから軽く済ませる。夜は 6 人で小宴会。

二日目、朝 4 時に外に出ると夜空にオリオン座、しかし 5 時にはもう星は見えなくなっていた。この日も雨模様、6 時前に出発して途中でカッパを着る。高地での雨は低地と違いやさしい気がする。途中何度か休憩をとりながら他の登山客と追いついたり追い越したりを繰り返す。今回はストックを使わずに登ろうと思っていたがピークになりついに使用。森林限界も越えて、ガレ場の大きな岩窟に播隆上人が、槍ヶ岳登山の際修行したという跡を見る。神聖な場所だ。

槍ヶ岳はガス(霧)の中で見えない。山荘がみえた！の土井先生の声に元気づく。午前 11 時過ぎ。ザックを降ろし少し休憩後いよいよ槍ヶ岳を目指す。

ガスで視界は悪い。土井先生、山本さん、私、池田さん、中林支部長の順で登り始める。ヘルメットに指先のカットされた滑り止めの手袋で岩場を登る。

三点支持、空いている一つを次の岩場に確かめて置く、体を起こす、岩を落とさない・・・・6 月の植木での岩登りの研修が役に立った。

幾つかの鎖、鉄杭、ハシゴを緊張感を持ちながら慎重に登る。20 分程で雲の中の頂上へ。切り立った頂上で皆で写真を撮り 15 分で降りる。

感想・・私は小槍の上でも、子ヤギの上でもアルペン踊りは踊れません。

槍ヶ岳山荘では、6 人でまた小宴会　これもまた楽しい。

翌日はヘッドランプを着け、まだ暗い 5 時前に出発。22km を 7 時間で降りた。晴れていたが、登山道から見える穂高の山にはやはり雲がかかっていた。

3000m の槍ヶ岳山荘の入り口近くにスズメの様な歩き方をするモズ程の鳥を見つけ、また横尾付近では、リスかイタチに似たオコジョを見た。初日には、10 匹程のサルの家族とも出会った。帰りは、みんなで温泉につかって疲れを癒した。ここまでが、登山です。土井先生、今回は、計画から予約までお世話になりました。

登山ガイド付きのツアーみたいで楽しめました。まだ余韻を楽しんでいます。皆さんもお疲れ様でした。

⑤ 第 11 回九州脊梁山脈トレイルラン大会支援　　担当：松本博美

9 月 23 日、天気に恵まれ開催される。実走ランナー269 名、途中棄権のランナーが数人いたが大きなトラブルや事故もなく山岳スタッフとしての役割を終える。

＊　＊　＊　＊

9 月 22 日（土）14：00 大津公民館駐車場集合、出発。

参加メンバー（8 人）：松本顧問　中林支部長　山本事務局　岩下　中村　外山　沼野　松本

高森町で今夜の宴会用アルコール、9/23 の朝食購入。山都町馬見原の熊乃屋旅館にて夕食弁当、無線機等を積み込み、16 時 15 分スキー場到着。レストハウスの鍵が開いておらず 17：00 まで待つこととなる。17：20 より岳連との打ち合わせ。（今年の参加者：JAC8 名、岳連 10 名）。各ポイントの人員配置、無線機等の確認。　JAC の配置　P5（小川岳山頂：中林、岩下、中村）　P6 松本　P7 山本　P8（スキー場上部　松本顧問、外山、沼野）。

18：00 より夕食タイム。発電機により投光器の明りがいくらか気分を和ませる。夕食後、岳連との懇親会に入る。自己紹介等、和やかに宴が進む。22：00 過ぎ消灯。

9 月 23 日（日）5：00 起床。　それぞれ朝食を済ませ P5　P6　P7 のメンバーは 6：15 出発。各ポイントに到着後ランナーを待つ。谷から吹き上げてくる風が寒い。1 枚、2 枚と重ね着をして寒さをしのぐ。テルモスのお湯でコーヒーを淹れる。待つこと 40 数分、五ヶ瀬のランナーが通過していく。山都町のランナーとゼッケンの区別に戸惑う。山都町のランナーとして走った土井会員が北アルプスの疲れがたまっているのか、きついと言って走りぬけていく。

最終ランナーが 11：30 頃　P6 を通過。山頂ポイントのメンバーを待ち、P5 の山本氏と合流後　表示板を撤収しながら下山する。　スキー場レストハウスで昼食を済ませ、無線機など備品の返却は岳連にお願いして帰路につく。16：00 過ぎ大津帰着。

＜今後の提案＞

・各ポイントの位置を事前に決めておく。山頂とかスキー場とかはっきりしている場所はよいが、目印になるものが無いポイントは初めての人は分からない。試走の際、無線機の電波が入りやすいポイントを決めておく。

⑥ 平成 30 年度森林保全巡視登山　（八方ヶ岳）　　（担当　田北芳博）

日時　１０月１４日（日）　八方ヶ岳
集合場所　矢谷渓谷キャンプ場　９時
参加者　１２名
　　松本博美　加藤明　石井文雄　安場俊郎　中林暉幸　池田清志　中村寛
　　森尾奈美　外山成臣　長元亜衣　小林サユリ　田北芳博
登山装備　通常の日帰り夏山登山スタイル、森林巡視登山のためゴミ袋
登山リーダー　松本博美　　担当　田北芳博
行程　　矢谷渓谷キャンプ場出発９:１５　→　矢谷橋登山口９：４０　→
　　穴川越１０：４０　→　八方ヶ岳頂上１１:５０（昼食）　→
　　下山開始１２:３０　→　林道１４:００　→　矢谷橋登山口１４:５０　→
　　矢谷渓谷キャンプ場駐車場１５:１０→
　　巡視登山後の反省・支部長挨拶・解散１５:１５

巡視登山の状況

森林巡視登山は春が中止となったので本年度初めての実施であった。予定の集合時間 9 時前に全員集合、支部長挨拶・準備体操ののち 9 時過ぎには登山開始、リーダー松本博美氏。八方ヶ岳の国有林（原生林）を巡検しながら歩き、途中の深い原生林を満喫しながらの登山である。森林巡視登山の目的であるのでゴミ袋を数人が持って登る。登山道には数個のごみを拾ったが、ほとんどゴミなどは見当たらなかった。登山道穴川越への登りでは数年前に比べ渓谷の滝等の案内が増え、案内が丁寧になっていた。

（穴川越しにて休憩）

穴川越からの登りは深い原生林に覆われて、右側が崖のところもあり、注意した登下山が必要だがロープ等張られており以前より整備されている。紅葉にはまだ早いが天然林が深く美しい。八方ヶ岳山頂は快晴で四方が見渡せ最高の眺望である。

（右側崖のハシゴ登り）

下山は周回コースで一般的なカニ鋏岩の南を通り林道へ出るコースである。下山コースは杉・ヒノキの植林が多く、一部歩きにくいところもある。林道手前ではヒノキの伐採工事が行われていた。１月以上前に下見をしたときに比べるとかなり伐採工事が進み、登山道がわからなくなるほどであった。

今回の登山には若い女性２人の初心者も誘い参加していたが、このような機会を通して若い男女の入会を増やし、会の活性化を図りたいものである。

八方ヶ岳国有林は原生林が深く、伐採後の山の状況の変化や登山道の整備状況など、森林巡視登山として、今後も国有林を日頃より見て回ることが重要だと感じた。

（八方ヶ岳山頂にて）

（山頂からの阿蘇方面の眺望）

⑦ 平成 30 年度秋の登山教室　“男池から入山する平治岳”

担当：松本博美

目的：原生林の紅葉鑑賞と写真撮影技術指導（講師：田北会員）

日時：平成 30 年 10 月 27 日（土）参加人数 22 名

天気晴れ。週間天気予報を裏切って天気回復。晴れやかな気分で集合場所の市民会館に 6：0 0 過ぎ着く。6：20 になっても市民会館乗車の 3 人のうち 2 人が来ない。1 人の方に電話すると参加予定者に発送したハガキを丁寧に読まなかったのか参加募集の案内と思ったとのこと。“参加の皆様へ”という表題で出したのだが・・。いずれにせよ不参加である。もう 1 人は 2 回コールしても電話に出られないので予定より 10 分遅れで 6：40 やむなく出発する。ほどなくして 2 回コールした人から電話が入る。“登山教室、今日だったですかね？”という返事が返ってくる。気持ちがトーンダウンする。

7：10 大津着。スタートからつまずき先が思いやられる。ほどなくして大津出発。バス車内で田北会員の“わが流儀の山写真撮影方法”の座学が始まる。熱の入った座学であり、さすが写真集を出版された人である。

8：30 三愛レストハウス到着。ここで乗車の甲斐さんに 30 分遅れたことを謝罪する。8：40 三愛出発。　9：15 男池登山口到着。身支度を整え、準備体操後 **9：30 登山開始**。寒風で身が縮む。すぐに樹林帯に入り風を受けることはない。男池周辺の紅葉は色づき始め、ピークは 1 週間後くらいだろうか。かくし水を過ぎ、少しずつゆるやかに高度をあげていくと紅葉の色づきが鮮やかさを増しソババッケ付近は身を染めるほどの美しさであった。参加者の感嘆の声が企画した者として嬉しい。ソババッケの林の中からオカリナの音色が聞こえてきた。2 人の登山者が演奏していた。思わず拍手を贈る。

ソババッケから大戸越への登り、踏ん張りどころである。息が弾む。隊列が乱れ始め、休憩して息を整える。**12：00 大戸越到着**。予定より 30 分遅れ。北西の風が吹き荒れる。平治岳登頂をどうするか支部長と協議。このまま山頂目指した場合往復 90 分を要す。大戸越から下山口の吉部までは 3 時間はかかる。遅くとも 4 時吉部下山は厳しくなる。平治岳登頂をあきらめる。峠を東側へ少し下った木立の中で風を避け昼食とする。

12：30 大戸越からから吉部への下山路をたどる。岩が多く歩きづらい。メンバーが足を滑らせないか心

（大戸越にて）

配しつつ慎重に歩を進める。30 分下った所が坊ヶツルとの分岐地点。ここまでくればあとは穏やかな下りである。紅葉した自然林の樹林帯を歩く。気持ちの良いトレッキングルートである。紅葉が美しく青空に映える。

大船林道に出てしばらく砂利道歩き。落葉が砂利道を覆い隠す。再び鳴子川沿いの登山路に入る。西日に映えて紅葉が美しい。**15：30 吉部到着。歩行時間約 5 時間 30 分。**

16：00 帰路につく。車中、快い疲労感が眠りを誘う。平治岳登頂はかなわなかったが紅葉は素晴らしく、登りルート、下りルートとも満足いくものであった。大津駐車場でほとんどの参加者が下車。私と内布さんが熊本市民会館に向かう。**18：45 到着**。

今回だけではないと思うが事業を実行するまでの過程でいくつか課題が残った。そのことをぼんやり考えながら家路についた。

⑧ 第 34 回宮崎ウエストン祭参加報告　　（担当　田北芳博）

期日　平成 30 年 11 月 3 日（文化の日・土）～4 日（日）

場所　宮崎県高千穂町五ケ所

参加者　松本莞爾（登山不参加）・石井文雄・安場俊郎・中林暉幸・田北芳博・山本直・佐藤正樹
　　坂本雄二・中村寛・外山成臣・佐藤正樹・（佐藤長男）・（佐藤長女）（子供を含む 12 名）

熊本支部行動報告

11 月 3 日　13：30 大津町生涯学習センター駐車場
　集合出発、中林車・安場車の 2 台を依頼
　　途中、長陽大橋の先で渋滞にあった。
　15：30 三秀台着
　16:00 三秀台ウエストン碑前にて式典(8 名参加)
　17：00 五ケ所公民館へ移動
　18：00～19：45　五ケ所野菜集荷場にて交流会
　　今年は例年の会場に戻って交流会、神事の後
　　カッポ酒のふるまいと神楽を堪能

（ウエストン碑前にて）

20:00～21:45　五ヶ所公民館にて九州各支部との懇親交流会

今年は北九州支部からの参加者が多かった。

21:45 過ぎ　就寝

11 月 4 日 6：00 起床 7:00 前朝食　7 時 25 分出発

（中林・安場・佐藤車の 3 台に分乗、総勢 11 名）

8：45 三突山登山口着

登山行程　　ＣＬ：中村寛　ＳＬ：石井文雄

三突山登山口 9 ：00→　三突　9:55→　黒岳

10:55→親父山 11:45（昼食）　障子岳へ 12：15

→　障子岳山頂 12：45→　親父山 13：15→

13：20 下山開始→　登山口

14：35　整理運動・支部長挨拶・解散 14：45

（五ケ所集荷場交流会）

登山行動

すでに親父山登山口前の駐車場は狭く満車であったので、三突登山口の先は林道が広く、路肩に駐車した。参加者は大人 9 名、小学生男女 2 名の 11 名である。

親父山から先に登るか、三突から先に登るか意見が分かれるところであったが、かねての計画通り三突から登ることにした。三突への登り始めは、急登であり登山開始後女の子がきつそうであった。黒岳近くになると途中多少の岩場があり、狭い尾根道だったりしたが、無事に黒岳・親父山まで登りついた。黒岳・親父山周辺は紅葉が特に美しいが、今年はすでに紅葉は終わりに近く残念であった。現在の紅葉の盛りは登山口付近より下に降りている。

親父山山頂に 12 時前に到着、昼食とする。この後希望者（外山氏・佐藤氏親子を除いて）により障子岳まで行く事にする。障子岳手前は、球磨の白髪岳山頂のような、枯倒木が広がっていて、やがて裸山の危機も窺がえる。原因は何であろうか。障子岳山頂からは、天候もよく祖母・傾山系の山が一望でき最高の眺望であった。

後で思うに障子岳まで行けたので、三突が先でよかったように思う。下山は最短コースを下山した。下山の終り近くに林道に出たが、荒れており現在のところ車の通れる見込みはないようである。

今年は祖母山北谷登山口までの林道が工事中とのことで、祖母山登山を予定していた他支部も祖母登山から変更して、熊本支部と同じコースをとる支部もあった。

（障子岳山頂集合写真）

（黒岳からの祖母山の眺望）

（親父山山頂集合写真）

（祖母山・大障子の眺望）

※　宮崎支部から後日、ウエストン祭参加の御礼と感謝の書状を頂きました。
　　宮崎支部の皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

⑨ 個人山行：八ヶ岳縦走　　千々岩泰子

日　時：平成３０年８月２日（木）～８月７日（火）
参加者：千々岩泰子・藤木真智子
コース概要
　総距離　36.5 キロ
　最高点の標高　2899.4m（赤岳山頂）
　最低点の標高　1570m　（観音平登山口）
　累積標高（上り）3757m　累積標高（下り）3544m

（稜線から赤岳）

行程
　１日目：熊本駅（みずほ 600 号）＝広島（のぞみ）＝名古屋（しなの 11 号）塩尻＝小淵沢（泊）
　２日目：小淵沢宿（タクシー）＝観音平登山口～編笠山～青年小屋～権現小屋～キレット小屋（泊）
　３日目：キレット小屋～赤岳～横岳～硫黄岳～夏沢峠～根石岳山荘～東天狗岳～黒百合ヒュッテ（泊）
　４日目：黒百合ヒュッテ～中山峠～白駒池～麦草ヒュッテ～茶臼山～雨池峠～北横岳ヒュッテ（泊）
　５日目：北横岳ヒュッテ～北横岳～大祥寺原～蓼科山荘～蓼科山～七合目登山口～ゴンドラ乗り場
　　ゴンドラ乗り場＝蓼科牧場（タクシー）＝白樺湖（バス）＝茅野ビジネスホテル（泊）
　６日目：茅野＝塩尻（しなの 6 号）＝名古屋（のぞみ 25 号）＝小倉（さくら 557 号）＝熊本駅

今年の夏山は、私も藤木さんも未踏の八ヶ岳に決め、南から北へ編笠山から蓼科山へ、山小屋 3 泊 4 日で縦走にする事にしました。リュクの重さを 10 キロ以内にする為、山小屋での着替えは持参しましたが、下山後の服は、縦走中の登山着を洗濯して帰宅する事にしました。ただ、問題が 3 つあり、「登山コースをどうするか」と、「天気になってくれるかどうか」と、そして「観光地の八ヶ岳の宿が直前で予約出来るか」でした。八ヶ岳は登山口、コースが多く、どこが危険でどこが安全で歩き易いか、本当に難しいコース選定でした。出発予定日の 1 週間前時点で、八ヶ岳山麓の降水確率は 20%、赤岳山頂の天気は曇りと雨の予報で、なかなか出発の日を決めかねていました。8 月中旬以降に延期しようかと思いましたが、出発の 3 日前に 8 月 2 日から行く事に決めて準備にかかりました。山小屋を早く出る為に朝食は尾西の山菜おこわや五目御飯、パン、乾燥味噌汁など用意しました。タクシー、山小屋の予約、ＪＲ新幹線など乗車券の購入などバタバタとすませ、麓の宿はありましたが夕食無しでした。

8 月 2 日　7 時過ぎに藤木さんと熊本駅で待ち合わせ、新幹線などを乗り継ぎ名古屋から塩尻駅そして小渕沢駅に着きました。宿に 16 時着、夕食は名古屋で買った駅弁でした。8 月 3 日　晴れ 4 時起床　朝食（持参した山菜おこわ半分と味噌汁）予約したタクシーで観音平に向かいました。登山口で登山届を提出し 6 時出発、まずは編笠山へ。押手川分岐からは大きな石がごろごろの急登、なかなか九州には無い登山道でした。編笠山に 9 時 25 分着、山頂は岩塊だらけで展望が良く権現岳、赤岳も雲の合間に見えていました。赤提灯で有名な青年小屋への下りも小屋前は大きな石だらけで歩き難く気をつけました。権現小屋に 11 時 45 分着。ベンチで昼食（朝食の残りとパン、味噌汁）、その後権現岳に行こうとしまし

（コマクサ）

（硫黄岳のコマクサと天狗岳）

たがガスが上がってきたので無理をせずキレット小屋を目指しました。60 段ほどの長い鉄ハシゴを下り、旭岳を過ぎた稜線で正面に赤岳、阿弥陀岳など大きく迫り素晴らしい展望でした。そこから下りに下り小さなキレット小屋に 14 時に着きました。

小屋の側にはコマクサが咲き白いコマクサもありました。トイレはテント場の前で不便でしたが、テント場からの赤岳は圧巻で何処をどうやって登るのだろうと思える程の山の姿でした。水は持参したペットボトルに 200 円で 500 cc 入れてもらう、八ヶ岳では水が無い小屋はそんな感じでした。夕食は貝入りカレーと温野菜。また、食事中、「赤岳頂上山荘まで行けないから宿泊させてほしい」と 4 名来られ、小屋は予約制でたった一人の小屋番さんは困惑されていましたが、結局宿泊されました。その夜は 11 名の宿泊者でゆったりと一夜を過ごしました。

８月４日　晴れ４時起床　朝食（五目ご飯半分と味噌汁）5 時出発、今日は黒百合ヒュッテまでのロングコース。小屋番さんに聞いたら昨日と同じ位のコースと聞き、気を引き締めて小屋を後にしました。少しずつ登山道も急になり、テント場からは見えなかったガレ場や岩のルートは、近く来ると踏み跡があり安心しました。それでも火山特有のもろい岩場やハシゴ、クサリ場、下山する人もいて今にも岩が落ちそうな所もありました。赤岳山頂に 6 時 45 分着、登山者も多く、頂上に着くとガスが上がってきて展望はあまりよくありませんでした。下りも気を引き締めて横岳に向かいました。キレット小屋から岩場の多い横岳までが今回の遠征の核心部、チシマギキョウやウスユキソウの花を楽しみながら横岳に 9 時 20 分着。山頂を後に鞍部の硫黄岳山荘前で昼食（朝食の残りとパン、味噌汁）。後は黒百合ヒュッテまでと思い少し気が楽になりました。山荘を過ぎると砂礫の中にコマクサの大群落は見事でしたが、今年の暑さで少し花は終わりかけでした。硫黄岳まではダラダラの登り、硫黄岳に 11 時 8 分着。赤岳よりも登山者が多く火口壁を歩く人もいましたが、やはり阿蘇のほうが雄大だと思いながら夏沢峠に向かいました。夏沢峠の山びこ荘で水を買い有料トイレを借り箕冠山へ、緩やかな登りと森の中で少しほっとしました。

（赤岳の岩場）

（イワベンケイとミヤマウイキョウ）

（ミネウスユキソウ）

砂礫地の奥に根石岳山荘が見えて来て、その砂礫地にもコマクサの群落がびっくりするほど咲いていました。山荘に立ち寄ると湧き水がたくさん出ていて小屋の方に料金を聞くと「無料です。どうぞ」と言われ、水は冷たくてとても美味しく頂きました。この小屋は温泉もあるのでここに泊まる事も考えましたが最終日の天気を考え、先まで行く事にしていました。根石岳山頂からいったん下り、東天狗岳までのダラダラの登りは遠くなかなか進まず、山頂に 14 時 15 分やっと着きました。山頂からは今夜の宿、黒百合ヒュッテが見えました。下山道は途中から岩屑や岩場で歩き難く、怪我をされた登山者もいて、黒百合ヒュッテに 15 時 40 分着。多くの登山者、特に若い女性で賑わい、テントも沢山ありました。小屋は新しく、2 階が寝室、水洗トイレ、リュックは 1 階に置くように言われたので、リュック用の棚に置こうとしましたが、いっぱいだったので、棚の前に置きました。16 時半から順番に寝室への案内があり、

最初は当惑しましたが、早朝出発の私達にはよかったのかもしれません。夕食はハンバーグと煮物、お茶はご飯を食べ終わって、その茶碗に注ぐようになっていました。

（蓼科山山頂から八ヶ岳）

８月５日　晴れ　３時半起床　朝食（小屋の弁当の半分と味噌汁）５時出発。今日はこれまでと違い、高低差は少ないし楽だと思いました。高見石小屋から丸山の予定でしたが、白駒池のコースに変更して麦草峠に向かいました。白駒池周辺では苔を観察する人も多く、麦草ヒュッテに８時半着、広い駐車場で車や大型バスもいました。ここからは大石峠を通り茶臼山への登り、石ゴロゴロの急登で歩き難く、10 時に山頂着。展望所まで 10 分ほど歩き、そこからは八ヶ岳の展望が素晴らしいご馳走で、昼食（弁当の残りと味噌汁）。縞枯山を登り雨池峠に下り、北横岳ヒュッテまでは雨池山を登るより縞枯山荘通る方が楽なのでそこを歩きました。坪庭まで来ると、北八ヶ岳ロープウェイの山頂駅が近い為か、観光客が多くなかなかに先に進めませんでした。ヒュッテまでの最後の急登も家族連れの登山者が多くびっくりしました。13 時半、ヤナギランの咲く北横岳ヒュッテ着。ここは昔ながらの小屋で２階に案内され、早々にゆっくりと過ごせました。今夜は３パーティー10 名の宿泊者で夕食はなんと「すき焼き」、山小屋ですき焼きは初めてで、単独の方と３人で鍋を囲んでたくさんの山の話で楽しい夕食となりました。

８月６日　晴れ　３時半起床　朝食（五目ご飯半分と味噌汁）4 時 45 分出発、北横岳に 13 分で山頂着。目の前に、遠征最後のピーク蓼科山が見えました。亀甲池までの急坂は苔とシラビソの林に朝日が差し込み幻想的でしたが、足場が悪い上に急でなかなか亀甲池に着かず 1 時間 20 分もかかりました。ここから蓼科山の登りの分岐大祥寺原までは歩き易い下り坂で正面に蓼科山が良く見えました。大祥寺原から将軍平までの急登は途中から石ゴロゴロ、昨夜のすき焼きのご馳走で体は軽く感じました。蓼科山荘のある将軍平に８時半着、ここで今日初めて登山者に出会いました。山荘からの登りは急で、大きな石を乗り越え乗り越え、岩屑の山頂に９時 20 日分着、山頂は 360°の展望抜群で、北アルプス、南アルプス今回歩いて来た八ヶ岳が遠くに見えたのは感無量でした。蓼科山荘へ下り、昼食（山荘の豚汁と朝食の残り）。蓼科牧場から白樺湖までのタクシーを予約しました。下山道は広いけれどガラガラ、足場が悪い事は覚悟していましたが、疲れた足には特別にこたえました。長い下り坂を下り、七合目登山口に着いた時はほっとしました。そこから 20 分ほどでゴンドラ乗り場に 12 時 35 分着。ゴンドラに乗り、蓼科牧場に着き、楽しみにしていたソフトクリーム食べ、縦走出来た事と合わせて大満足でした。白樺湖までタクシー、そこからバスで

（ヒメシャジン）

（タカネナデシコ）

（ミヤマダイモンジソウ）

茅野駅に着き帰りのＪＲの指定席を購入して、ビジネスホテルに 16 時に着きました。入浴、洗濯を済ませ、近くの居酒屋で 2 人祝杯をあげました。

8 月 7 日　晴れ　ビジネスホテルのバイキング朝食を食べ、茅野駅 8 時 50 分発でＪＲを乗り継ぎ熊本駅に 16 時半前に着きました。車窓から八ヶ岳の稜線は、雲が降りて見えませんでした。

今回の遠征は天気が心配でしたが、思いの外天気に恵まれ、予定した八ヶ岳から蓼科山まで歩くことが出来ました。危険なところは赤岳、横岳周辺だけと思い油断していましたが、東天狗岳と北横岳の下山道や蓼科山など、悪路で疲れ足には大変でした。南八ヶ岳はコマクサやヒメシャジンなど高山植物が多く、北八ヶ岳はシラビソやコメツガの森の中に苔が多くゆっくり観察出来なかったのは残念でしたが、一度に多くの山を楽しめ、充実した山行になりました。

（白駒池）

（縞枯山荘）

随想寄稿

想い出の山行　「槍沢にて」　　城戸邦晴

４２年前の夏、私は妻と二人で槍ヶ岳登山を計画した。当時の記録を基に思い出を書き起こしてみた。

私のいた会社は大阪に本社、堺、岐阜、九州荒尾に工場があった。このとき私は荒尾にいた。北アルプスへの山行はまさに「遠征」というにふさわしい遥かなものであった。大阪にいたとき北アルプスに通い始めた私は、九州に移っても登りたい気持ちを抑えられず、お盆休みを利用して実行したのである。

新幹線で名古屋へ出て、松本から上高地へ入ったのだが、着いた時、山は霧に包まれ、小雨さえ降っていた。雨の上高地も情緒があってよいと思ったが、先を目指す私たちは、早々に出発した。

明神を過ぎ、徳沢を過ぎると雨はひどくなった。そしてとうとう横尾で足止めを余儀なくされたのである。ここで私たちはテントを張った。まるまる一日雨の止むのを待ったのだが、山の中での滞在も苦にはならなかった。野ウサギの遊ぶさまを間近に見たりして、ゆっくりと時を過ごした。

翌日の午後になって雨が上がったので、急いでテントをたたみ、槍ヶ岳を目指して出発した。夕方までには槍ヶ岳山荘に着こう、そして明朝山頂で日の出を見ようと話しながら、一ノ俣を過ぎ、樹林の中をさらに進んでいく。霧が残っていて、風景を楽しむこともできない。いやになってきた頃、槍沢ロッジに着いた。大勢の泊り客を横目に見ながら、さらに登る。行く手の道は、目の前に大きく広がる槍沢に出た。この辺まで来ると前方に目指す槍ヶ岳が見えるのであるが、やはり霧に隠れていた。大きな岩のゴロゴロする広い谷間を登っていく。その途中、小学生と思える子供を連れた登山者を追い抜いた。

次第に暗くなってきた。なんとか目的地まで着きたいと思ったが、真っ暗になってはテントのスペースさえ確保できなくなる。水を汲むにも危険が伴い、足を踏み外す恐れもある。私たちは薄暮の中、テントを張ることにして場所を探した。しかし周囲は岩だらけである。やっとスペースを見つけてテントを張った。ランプを頼りに食事を作っていると、先ほどの親子連れが登ってきた。子供は元気なのに親の方は相当疲れている様子なので休憩することをすすめ、熱い飲み物を作ってやった。

「テントはいいですね、どこでも泊まれる。自分たちも持ってくればよかった。」

「でも荷物は重くなりますよ。」

「小屋まであとどのくらいでしょう。」

「灯りが見えるから、もう３０分も行けば着けるでしょう。」

この時の会話を私は今でも覚えている。実際、山小屋のものらしい灯りを私は見たのであった。親子連れはしばらく休んで出発した。

夜、私は用を足そうとテントの外に出た。その時ヘッドライトの光が幾つも上の方から降りてくるのが見えた。オーイ、オーイと呼んでいる。何とも言えない不安が胸をよぎった。近くまで来たとき、思いもかけないことを聞かされた。親子連れを見なかったか、というのである。私達はありのままを言った。あれからもうかなりの時間がたったというのに、まだ着いていないという。その人達(多分小屋の人達だろう)はなおも捜すといっ

て下っていった。私達は何か悪いことをしたような、怖いような、そんな気持ちだった。

次の朝、早くから登り降りする大勢の登山者の声が聞こえる。顔を出してみると晴れていた。テントのすぐ傍を通っていく。もうちょっと寝たいのに、うるさいなと思っていると、「困りますね、道の真ん中に天幕をはっては！」

昨夜、岩のゴロゴロする中で、やっと見つけた平坦な場所、喜んでテントを張ったそこは、道の真ん中だったのである。

私達は登り始めた。近いと思っていた山荘までの道はかなりあった。昨日の親子連れのことが気になった。山荘へ着いた時、思い切って聞いてみた。

「昨日遭難があったのですか。」

意外なことに、ないという。親子連れを捜さなかったかと聞いても、知らないという。

それなら、昨夜のことは何だったんだろう。不思議な思いが残った。いずれにしても、事故がなかったのなら結構ではないか、私たちはそう言いながら、槍の頂上へ向かった。

また霧が出ていた。霧はまもなく雨になった。私たちは雨の中、急な斜面を槍平に降り、そして、夕闇のせまる山道を新穂高へ向かって歩き続けた。

後になって思い起こせば、山小屋は槍ヶ岳山荘だけではなかったし、グループ登山だったのかもしれない。案ずるほどのものではないかもしれないし、逆に大事に発展していたのかもしれない。夜のライトが近づいてくる場面は印象深く残っている。はるかな昔の山の想い出である。

事務局より

新入会員会友紹介

新入会員	**沼野雅人**	熊本市	会員番号	16418	
新入会友	**甲斐いくよ**	阿蘇郡高森町			(敬称略)

沼野さんには大学受験を控えて多忙な中にも拘わらず、入会早々の 9 月、九州脊梁山脈トレイルラン支援に参加いただき、次のような感想を頂きました。この春の念願成就を祈念いたします。

「今回、私は日本山岳会から大会支援という役割で参加しました。この会での活動はこれが初めてで、顔合わせもしていない方々もいたので最初はすごく緊張していました。しかし、荷物運びや食事をしていくにつれて話せる機会が多くなり、他団体の方々ともコミュニケーションがとれるようになっていました。大会当日の活動内容はランナーの人数確認だけでしたが、ランナーに対して「ファイト！」などの声援やルート説明をすると、「有難う！」と声を自然と掛け合う関係になりました。ここで改めて声の掛け合いは、それぞれの活動にいい影響を与えるものだと実感しました。次回は、九州脊梁トレイルランにランナーとして参加し、声援をもらいたいと思いました。」